

# 入学おめでとう

入学を祝して――  
中央大学の環境を存分に活用して「知性」を磨こう！



学長  
福原 紀彦  
FUKUHARA Tadahiko

今春、新型コロナウイルス感染症の影響下で予測不能な社会状況にありながらも、本学における学生本位の対応姿勢や多大な支援のもとでの修学環境の維持・充実の取組みに理解を示され、中央大学に学びの場を求める皆さんを、教職員一同、心から歓迎致します。皆さんが大学進学のために重ねられた努力を讃えますとともに、本学への入学をお祝い申し上げます。

大学での学修環境はもとより課外活動等を含めた学生生活は、感染予防と健康・安全のために、新しい様式のもとで変容しつつありますが、中央大学では、伝統と実績のもとに、実に多くの関係者の力強い支援のもとに、皆さんに特別の奨学資金を用意し、経済支援策の拡充をはかって、皆さんを迎えました。中央大学でのさまざまな出会いと生活が、皆さんの輝かしい未来の礎となるよう、さまざまなことに挑戦する機会を提供致したいと考えています。

中央大学の起源は1885年に設立された「英吉利法律学校」に遡ります。その建学の精神は、「實地應用(じっちおうよう)ノ素(そ)ヲ養フ」というものです。経験を重んじ自由を大切にすイギリス法の教育を通じて、品性の陶冶(とうや)された人材を育成し、わが国を近代的な法治国家にすることを目指しました。中央大学は、その後、「白門」を象徴とする135年に及ぶ歴史と伝統を築きながら総合大学として発展し、建学の精神を社会で実践することを使命としてきました。このことは、今日、多様な学問研究と幅広い実践的な教育を通して「行動する知性。—Knowledge into Action—」を育むという本学のユニバーシティ・メッセージとして受け継がれています。

今日、大学に学ぶ人達は、著しい変化を遂げる未来社会を拓きながら、自らの人生を築く世代です。Society5.0とも称される近未来の人類社会は、情報化がいつそう高度化し、AI・データサイエンスが牽引する知識基盤社会です。そこでは、与えられた情報から必要な情報を引き出して活用することができるリテラシーに加えて、獲得した知識と技能を生かし、未知の課題であっても創造的かつ自発的に取り組むことができる「コンピテンシー」を身につけ、グローバルな視点と発想で活躍できる能力と資質が求められます。本学の建学の精神である「實地應用ノ素ヲ養フ」という表現にある「素」とは、このコンピテンシーにほかなりません。

そして、「知性」とは、単なる知識や技能の集まりではありません。身につけた知識や技能が体系化され、どのように社会で役立つかが理解されたときに、それは、知性と呼ばれます。知性は公共のために存在しなければなりません。知性を社会で活かしたくなるところにこそ「志」が生まれるのであって、自己利益の追求だけで存在する意欲は志とは言えず、公共のための知性に支えられてこそ志と言えます。大学では知性を獲得することが大切であり、とくに中央大学で学ぶのなら、知識と技能の獲得に終わらず、志を生み出す知性としての「行動する知性」を身につけていただきたいと思います。

新入生の皆さんには、本学の環境とネットワークを存分に活用して、大いに学業に励み、学術・文化・芸術・スポーツ・ボランティア等の諸活動に参加して、未来社会を生きる礎を築きつつ、大きな成長を遂げられることを期待致します。どうか、健康に留意して、自信と安心を保持し、大学在学中に巡り会う人間関係やさまざまな機会を大切に、中央大学における学生生活を元気に過ごして下さい。皆さんのご健康とご活躍を心から祈念して、お祝いのご挨拶と致します。

# 大学は遊びに満ちた結界である



法学部長  
猪股 孝史  
INOMATA Takashi

新入生の皆さん、ご入学、まことにおめでとうございます。皆さんが中央大学法学部に入学されましたことを歓迎いたしますとともに、心からお祝いを申し上げます。今日にいたるまで、新入生の皆さんを励まし、支えてこられた、ご家族の皆さん、そしてご関係の皆さんにも、祝意と敬意を表します。

新入生の皆さんは、大学という時間と空間にどのような期待を寄せているでしょうか。刈谷剛彦＝吉見俊哉『大学はもう死んでいる？ トップユニバーシティーからの問題提起』（集英社新書〔2020年〕279頁）は、ヨハン・ホイジンガ『ホモ・ルーデンス』における主張を敷衍するならばとして、「自由の根幹は遊ぶことにあり、この遊びの時間の中にこそ大学の学びの時間の根幹もある。」「大学の魅力と学問への信頼は、社会に上手に適合すれば得られるものではない。むしろそんな社会から悠々と跳躍する力が知に求められる。大学が遊びに満ちた結界であることは、ますます必要なのである。」と、今日のアカデミック・キャピタリズムをやりわりと躲しつつ、鮮やかに喝破しています。そこで参照された『ホモ・ルーデンス』（高橋英夫・訳、中公文庫・改版〔2019年〕）は、1938年、ライデン大学の学長であったヨハン・ホイジンガによる名著で、「われわれ人間は、理性を信奉していたある世紀がとかく思い込みがちであったほど理性的であるとは、とうてい言えないことが明らかになった」（11頁）との認識のもと、ホモ・サピエンスと並ぶ人間存在の根源的な様態を示すものとして「ホモ・ルーデンス（つまり、遊ぶ人）」を提出し、その第一の特徴として、遊びとは「何にもまして一つの自由な行動である」（30頁）と指摘するのです。

大学という時間と空間は、規律ある自由にあふれています。その自由をどのように享受し、謳歌していくか、それは新入生の皆さんの手の中にあります。学問を究めるもよし、資格試験の準備に邁進するもよし、部活動に熱中するもよし、海外留学して見聞を広めるもよし、ボランティア活動に勤しむのもよし、どのようであれ、新入生の皆さんには、中央大学法学部で無限の可能性を追求しつつ、「行動する知性。」を身に付けてほしいと願っています。

残念なことに、現下の社会状況のもとでは制約があり、また多くの困難もあるでしょう。けれども、そのような中であっても、わたしたち中央大学法学部の教職員は、新入生の皆さんを支援し、協働するために存在します。いつでも遠慮なく声をかけてください。

# 中央大学経済学部を選択された新入生の皆さんへ



経済学部長  
山崎 朗  
YAMASAKI Akira

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。中央大学経済学部教職員一同、皆さんのご入学を心より歓迎いたします。

中央大学経済学部は、中央大学で2番目に歴史のある学部です。大学令で経済学部として認められたのは、東京帝国大学、京都帝国大学の経済学部が認可された1年後の1920年でした。1905年の経済学科設立から数えると、中央大学経済学部は116年の歴史を有しており、たくさんの卒業生が社会の多様な分野で活躍しています。

中央大学経済学部の特色は、①歴史のある経済学部であること、②大規模な学部であること、③先進的な学科構成であること、④留学制度、インターンシップ、奨学金制度が充実していること、そして⑤「本物」に出会える機会が多いこと、にあります。

中央大学経済学部の1学年の学生定員は1,062人です。大規模な学部だからこそ、4学科を擁することができ、同規模他大学の経済学部にはない、幅広い分野の多様な科目を提供できるのです。新入生の皆さんも、多様な科目群に出会い、そしてそれらの科目群を履修・学習することで、今後の人生の進路選択に役立つ新しい視点に出会えると確信しています。と同時に、少人数のゼミナール教育にも力を入れており、また、授業特別協力者としてたくさんの「本物」に出会える機会を設けているのも、経済学部の特色です。

そして、中央大学経済学部は先進的な経済学部です。国際系学部の新設が相次いだ1990年代よりも30年ほど前の1963年に国際経済学科を開設し、国連総会でSDGsが承認された2015年よりも早く2007年に公共経済学科を公共・環境経済学科に改称し、公共経済学のみならず、環境経済学の研究・教育の拠点となることを目指しました。

さらに、AIやデータサイエンスが話題にすら上っていない2007年に産業経済学科を経済情報システム学科に改組しました。日本の経済学部のなかで、もっとも充実した情報教育を行っていると自負しています。他大学に先駆けてインターンシップ制度を導入したのも、中央大学経済学部です。

昨年度の前期はコロナウィルス感染予防措置として、すべての講義、演習科目をオンラインによる遠隔授業としました。今年度は、外国語科目、体育、演習、少人数の講義を中心として、面接授業も実施します。面接授業に参加できない皆さんは、ハイブリッド方式による遠隔での受講も可能です。

withコロナ時代のキャンパスライフに対していろいろな悩みもあるでしょう。遠慮せずに経済学部事務室に相談してみてください。

# 「普通に存在している以上の状態」に到達するため



商学部長  
渡辺 岳夫  
WATANABE Takeo

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。商学部の教職員を代表して、皆さんにお祝いの言葉を申し上げますとともに、皆さんが中央大学商学部の学生となられたことを心より歓迎いたします。本年度も新型コロナウイルスの感染状況の影響を受け、少なくとも春学期はオンライン授業を一部取り入れた授業形態になります。商学部の教職員一同は、オンライン授業の良い部分を活かし、より良い授業環境を提供していく努力を続けてまいります。

さて、あなたは普段の生活のなかで、どれだけ「普通に存在している以上の状態」に到達したことがあるでしょうか。「それってどんな状態？」という声が聞こえてきそうですね。簡単にいえば、それは時間が経つのも忘れるくらい何かに熱中・没入している状態のことです。趣味の好きな何かや学校の部活をしている時、あるいは勉強(!?)をしている時に、そんな状態を経験したことがある人もいないのでしょうか。経験者に尋ねます。あとから考えてみて、そんな状態に到達したときの気分はいかがでしたか？

多くの心理学者が、その状態を「存在の本質的状态(a state of being)」と呼び、人が精神を健康に維持するうえでとても大事なことでと指摘していますが、中にはそういった状態を経験できない人生は人生ではない、とすら言う人もいます。もちろん、何かを経験することによって得られる「結果」も大事でしょう。例えば、部活の試合で「普通に存在している以上の状態」に到達し、そして結果として試合に勝ったこと、また、絵を描いている時にそんな状態になったとして、完成した絵の出来栄がとても良く周囲から褒められたことなど、それらの「結果」も確かに努力したことの「しるし」として意味はあるでしょう。でも、それよりもずっと大事なのはやはり、何かに熱中して時を忘れるような、そんな状態に達することそれ自体なのです。

では、そうなるために求められることは何でしょう。最も大事なことは、とにかく熱中できる対象を見つけることです。大学生活は、誤解を恐れずに言えば、自分が生涯をかけて熱中して取り組むことのできる何かを見つけるための「旅」です。一か所に長く滞在する旅もあれば、限られた期間の中で多くの場所を訪れる旅もあります。あなたは、あなたなりの旅をして、自分の生涯の「宝物」を見つけてください。

熱中できる対象を見つけたら、それに熟達するプロセスで必要な知識やスキルを身につけなければなりません。優秀な外科医は手術中、必要な手順やスキルをほとんど意識せずに行使し、局面に没入しつつオペを遂行するそうですが、それを可能にするのは、実は豊富な知識や経験を伴ったスキルなのです。あなた方も、あることについて段々上手になっていくにつれ(つまりスキルが伴うようになってきて)、どんどん楽しくなり、集中できるようになった、という経験があるのではないのでしょうか。熱中するのにも必要な条件があるのです。

あなた方がその条件をクリアすることができるよう、中央大学の教職員は精一杯応援します。大事な宝物を見つけ、それに熟達するための楽しい旅に、一緒に出発しましょう！



理工学部長  
檜山 和男  
KASHIYAMA Kazuo

理工学部にご入学の皆さん、入学おめでとうございます。コロナ禍での受験を経ての入学ということで感慨もひとしおと思います。

さて、中央大学の建学の精神は「実地応用の素を養う」というものですが、これを理工学部として解釈すれば、学問の対象が将来の職種に関連した実地応用の“実学”であり、教育はそのための素である“基礎力”を養うことにあるということになります。

そこで入学に際して、皆さんにお願いがあります。それは、将来の人生設計をまずは簡単でも良いのでしっかり描いてくださいというお願いです。この設計のことを“キャリアデザイン”といいます。これは自分自身の将来の職業や人生について、自らが主体となって構想し、実現していくことをいいます。人生100年時代と言われていますが、まずは大学卒業後のデザインです。このデザインを在学中に修正しながら描きつづけることが、学生生活を充実させ、また最終的に希望のキャリアを実現する上で重要と言えます。中央大学ではそのためのガイドとして、キャリアデザインノートを全員に配布していますので、是非有効に活用してください。

ところで、大学誕生のきっかけは中世のヨーロッパの都市部において職業の選択の自由が与えられたことに大きく起因していると言われていています。それまでは、職業は世襲制でしたが、職業の選択の自由が与えられたことを契機に、職人や商人を養成することから始まり、次第に一般の学問を教えるようになったと言われていています。まさにキャリアをデザインするために大学が生まれたわけで、大学に入学される今こそ、この点を認識していただきたいと思います。

また、理工学分野における実学は要求される技術レベルがかなり高く、学部教育で学ぶ内容では十分に対応することが難しいため、理工系学生の多くは大学院に進学しています。是非、皆さんも理工学分野の実学を牽引する人材になるために、大学院の進学を志していただきたいと思います。

いま、近未来の社会像である「Society 5.0」の構築や国連が提唱する「SDGs」における課題解決に向けて、一昔前まで「夢」だったことが実現またはその可能性が示されています。今後、科学者・技術者の出番は益々多くなることが予想されます。都心にありながら緑に囲まれた後樂園キャンパスは学問の探求に最適な環境です。キャリアデザインを描いて、一緒に学問を大いに楽しみましょう！

# キャリアデザインを描いて学問を楽しもう！



# 困難に立ち向かうこと



文学部長  
宇佐美 毅  
USAMI Takeshi

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。わが文学部は「知の宝庫」です。学問の楽しさや奥深さを存分に味わえる魔法の場所です。これからその場所で、おおいに学び、おおいに学生生活を楽しんでください。これから皆さんは、今まで出会わなかったような人びと、出会わなかったような考え方、に出会うことでしょう。その「出会い」をどうか大切にしてください。

中央大学は、そして世界中の人びとは、今コロナ禍というかつてない状況と懸命に闘っています。そのため、本学では一部の授業をオンラインで実施したり、課外活動を部分的に縮小したり、といった対応をしています。ですから、この状況の中で、本来ならあるはずの「出会い」が制限されているかもしれません。しかし、文学部としては、学生の皆さんの安全に最大限に配慮した上で、皆さんの学びが滞ることのないように、全力で応援していきます。クラス担任制をとって学生の皆さんの学生生活をサポートしていますし、他の教員も、事務室職員やキャンパスソーシャルワーカーも、学生の皆さんからの問い合わせや相談に丁寧に対応しています。

現在の状況を楽観視することはできません。しかし、困難な状況の中にいるときほど、人間としての真価、組織としての真価が試されると私は考えています。物事が順調に進んでいるときは、人は誰でも気分がよく、本当の課題を見過ごしがちです。しかし、何か困難な状況が起こったときには、それまで見えていなかった課題や問題が表面にあらわれてきます。そのために、私たちの心がすさんでしまったり、他者を強く非難したり、人と人が衝突しやすくなったり、するかもしれません。そんなときこそ、私たちの知性と真価が試されているのだと思います。

文学部は、数千年の過去から現在・未来までを対象とする学問分野を擁しています。医学系の学部でなくても、「病」や「感染症」に関連する歴史と現在を扱っている研究分野もあります。過去に人間はどのように「病」や「困難」に立ち向かってきたのか、そしてこれから私たちはどこに向かっていくべきなのか。そのヒントが、文学部の学問分野の至るところにあります。そのことを通じて、私たちは皆さんの学びを全力で応援していきます。皆さんも、文学部に継承されている知性と勇気を持って、この困難な状況と一緒に立ち向かっていきましょう。

# 複眼思考とエヴィデンス・ベースの議論を。



総合政策学部長  
青木 英孝  
AOKI Hidetaka

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんのこれまでの努力に敬意を表し、教職員一同心から歓迎いたします。また、皆さんをこれまで支えてくれたご家族にも心からお喜び申し上げます。

大学での学びでは、知識のインプットだけでなく、知識いかに活用し、どんな価値を生み出すかも重要になります。何を、いつ、どうやって学ぶかなど、自由裁量がとても大きい。好きなことを学べるので、好奇心や様々なことに疑問をもつことが大切です。また、自由であるが故に、自己規律が求められます。皆さんには大きな可能性がありますが、ポーッと生きていると何にもならない可能性も同じくらいあります。Withコロナ時代の大学にはオンライン授業もありますが、世の中のせいにして勉学を疎かにする人と、ここは他人に差をつけられるチャンスと捉える人とは、後々大きな実力差がつきます。新型コロナ・ウイルスは、大学だけでなく社会にも大きな変容を迫りました。デジタル・トランスフォーメーションの加速はその典型です。中央大学では、実地応用ノ素、すなわち不確実性が大きな時代でも、様々な変化にしなやかに対応できる素養を身につけて欲しいと思います。

学問は、スポーツや芸術と似ています。基礎を習得する段階では結構な労力が必要です。部活やクラブ活動で、一見単純な基礎練習を日々繰り返した人も多いと思います。でも、基礎を固めたからこそ、それを自由に用いる楽しさが待っていたはずです。大学での学びでも基礎固めの地道な努力が必要ですが、興味のある研究テーマを見つけ学問の楽しさを実感してください。

なぜ富士山は高く美しいのか。それは裾野が広いから。自分を高めるために、多くの経験を積んで視野を広げてください。学際性と国際性を特徴とする総合政策学部では社会問題の解決を志向しますが、社会は多様で、変化も速く、複雑です。例えば、国家対立の背後には、政治体制や経済政策などの違いだけでなく、人種や宗教、歴史観の違いなど様々な要因があります。だからこそ、複数の学問から本質に迫るアプローチが有用なのです。面倒なことに、一つの解決策が別の問題を引き起こすことはよくあります。新型コロナ対策でも、人々の交流を抑制する防疫と、経済活動の活性化という相反する施策のバランスが問われました。社会問題では、正解は一つとは限らず、正解がない場合も、複数ある場合もある。白か黒かの単純な二択ではなく灰色も実に多い。さらに、時代とともに正解が変わることさえある。だからこそ、複眼思考とデータなどの証拠に基づく論理的な議論が重要なのです。

人生に大きな影響を与えるのは、得てして先人の知恵が詰まった書物か、人との出会いだと思います。大いに研究し、社会勉強し、生涯の友人を得てください。中央大学での学生生活を通じて、大きな自信を手にしてほしいと思います。



国際経営学部長  
河合 久  
KAWAI Hisashi

I would like to extend our congratulations on your admission to the Faculty of Global Management—GLOMAC. This year is the third year of GLOMAC's founding, and it is still in the same developing stage as the last two years. In that sense, you are one of the members who raise GLOMAC with the faculty and the staff, and I look forward to your active participation.

Companies today actively develop their business overseas. According to a survey, such companies face three major challenges. The first challenge is to secure human resources to carry on overseas business, the second challenge is to understand the regional and cultural characteristics of differing countries, and the third challenge is to develop business strategies conforming to each country's unique circumstances. When we view global management today, becoming a global talent requires not only a command of English and an understanding of different cultures, but also a mastery of basic knowledge and practice related to business management and operations. Therefore, it is important to have a business mind with excellent information literacy and analytical skills as well as to have the ability to act positively and cooperatively in a challenging environment built on the premise of diversity.

Although the effects of COVID-19 will unfortunately limit your normal university life, GLOMAC will provide face-to-face classes for about 50% of the courses offered. If you have any concerns about your classes, please consult with the teachers or office staffs immediately. And you could consult with your seniors about various aspects of student life through the online community of students.

Apart from the importance of academia, the four years of college life will provide a great opportunity to make life-long friends, to think about your own living style and to prepare yourself for a long life. University learning outcomes do not appear in a short time. Rather than judging things just after admission, please spend your days meaningfully so that you can see how much you have grown in four years. The gateway to the world cannot be opened so easily. I wish you a bright future.



国際情報学部長  
平野 晋  
HIRANO Susumu

〈Society4.0〉である〈情報社会〉の次に目指すべき、次時代の理想的な社会は〈Society5.0〉である、と政府は位置付けています。〈Society5.0〉とは、仮想(cyber)空間と現実(physical)世界とが結びついて、経済発展と社会問題解決との双方を達成する社会とされています。そこでは、多様なビッグデータが収集され、これが人工知能(AI)によって分析されて、ロボットや人事採用等の様々な商品や役務等に活用されます。そのようなシステムがCyber-Physical System (CPS)と呼ばれます。

政府が目指すSociety5.0に於いては、〈情報〉がますます高い価値を有することになります。故に情報は、既に世界的にも現代の「石油」(oil)とさえ呼ばれています。皆さんが無事卒業して働き始める頃には、この未来社会像が行き渡り、情報の価値は今以上に高まっていることでしょう。しかし、情報に価値があるからといって、石油のように無秩序に収集・利活用すれば、あたかも温暖化と環境破壊を招いた愚を繰り返すことに成るでしょう。すなわちプライバシーが保護されず、AIが下した判断にヒトが服従させられるようなディストピアが、既に懸念されているのです。

このように将来像といわれるSociety5.0やCPSは、解明・解決されるべき課題も多く内包しています。情報の収集・利活用についていえば、皆さんのプライバシー権との折り合いをつけねばなりません。AIの分析についても、ミスリーディングな判断や、社会規範に反する判断に対しては、これを許す訳には参りません。そして、そのような諸課題を解明・解決する為には、CPSやAIの基本構造や欠点を理解することが必要になります。更に、プライバシーを守る個人情報保護法の理解や、AIの判断に「No」といえる為の法や倫理や社会規範等への理解も、同時に必要に成ります。

幸い中央大学では、〈AI・データサイエンスセンター〉や他学部履修制度等を通じて、どの学部にも所属していても上記を学ぶ機会があります。そのような機会を最大限活用して、情報の仕組みに関する基本的な理解のみならず、時代が変化して様々な新興技術が世界を変革させても生き抜けるだけの普遍的な考え方も身に付けて、社会に貢献できる有為な人材に育って下さい。

CPS .. 情報社会の次に来る社会